

今日は北巽小学校全体で、いじめを考える日です。先生から少しだけ時間をもらってお話をするので、クラスでもいじめについて、担任の先生とこの後、お話してくださいね。先生は今日はいじめの中でも「言葉」に絞って、3つお話をします。

1つ目、今年の5月4日の新聞に、「言葉の毒、100年後も心えぐる」という記事が載っていたので紹介します。

2月13日福島県沖を震源とする最大震度6強の地震がありました、その直後にBLM（ブラック・ライブズ・マター）が井戸に毒を投げ込んでる！」「バイデンが福島井戸に毒を投げ込んでるのを友達が見ました！」という冗談のツイートを流した人がいました。このツイートはあっという間に拡散され、翌日には約3万件になりました。

大阪府の在日コリアン3世のMさんは「井戸に毒」のツイートを見て「心臓に突き刺さるような恐ろしさ」を感じました。

国の防災会議によると、1923年の関東大震災では、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」とのデマが流された。関東で自警団や軍隊などが暴走し、多くの朝鮮人らが虐殺された。「私たちは常に、社会が混乱すれば殺されるかもしれないという恐怖をかかえている。『井戸に毒』

はトラウマだ、と語っている。

2つ目を紹介します。埼玉県のある地区の田畑が広がる中に、1人の朝鮮人の墓がある。墓の近くに井戸があった。現在もこの井戸は生活用水として使われている。近くに住むTさんは古い手帳を見せてくれた。「各人こん棒、日本刀、槍、短銃、鳥打銃等を持参し集まる・・・」それは祖父の字だった。デマが流れ、指示がなくても自警団が武装する様子が記されていた。「祖父が結成した自警団は夜警に出て、朝鮮人の男性を日本刀と槍で襲った。その朝鮮人は24歳という若さで、命を失うこととなった。

関東大震災は今からおよそ100年くらい前の出来事です。その際、「朝鮮人が井戸に毒を入れている」という、うその噂を流されて、それを信じた人たちに多くの朝鮮人が殺されました。先ほどの新聞記事は、「井戸に毒」というツイートはそのようなとても昔のことを思い出させ、自分にとってはとても恐ろしい言葉だというものでした。

3つ目を紹介します。5月13日、『「学校行きたくない」部屋に閉じこもった息子』の記事です。「卒業式に出るな。行くなよ。この常識なし家族が」。広島市の女性が新型コロナウイルスに感染して3週

間入院し、3月下旬にようやく退院すると郵便受けにはがきが入っていた。卒業式を控えた小学6年だった息子も感染して入院しており、親子が不在の時に投函されたものだ。「なんてひどいことを。息子が感染を理由にいじめられたらどうしよう」。小学校にも連絡した。卒業式は親子が入院中に終わっていた。発熱してからは登校させていなかったが、はがきは「なんで学校行かせた」と書かれていた。知人との接触の中で感染したとみられるという。女性は迷ったが、息子にはがきを見せることにした。からかわれた時に、どう対処するかを知って欲しかったからだ。読んだ息子は「学校に行きたくない」と言い、自室に2日間閉じこもった。夫は息子に「堂々としていればいい。何か言われたら『感染したら本当につらいから、みんなも気をつけて』と言ったらいいよ」と励ました。さらに「登校したくなければそれでもいいよ」とも。女性は「負けないで。でも、中学校に入り、あまりにいじめられるようなら転校しようね」と伝えた。父母の話を聞き、息子は「少し落ち着いた」と振り返る。息子は4月、地元の中学校に進学した。「ママ、入学式は来んでいいよ。僕は大丈夫だけれど、来たらママが何か言われるかもしれないから。もう傷つかなくていいよ」。式の前日、息子はそう言って気遣い、女性は参列を辞退し

た。「あの手紙がなかったら、たった1度きりの中学校の入学式に私も行けた。あれが全てを狂わせた」。中傷の一言が人生を狂わせてしまうことがあることを知ってほしいと願う。息子は「なりたくてなったわけじゃない。『コロナ一家はすぐ帰れ』という言葉に傷ついたし、悲しい気持ちだった」と話している。以上3つの新聞記事でした。

みなさんに覚えておいて欲しいのは、一度、言ってしまった言葉は元には戻らないということです。悪気がない言葉や冗談であっても、言われた方は深い傷が残ることになります。この記事でもあるように、ツイッターやラインなどのSNS上の言葉でも同じことです。「言葉」は時として、「暴力」よりも深い傷を残すこともあります。それもこの記事にあるように、とてつもなく長い間です。

みなさんには今日、いじめについて考える日の中で、自分が使う言葉を考える一日にしてもらえると嬉しいです。自分の普段使っている言葉を考えることが、いじめについて考えることにもつながっていると私は思います。